## 戦後復興の象徴

# 開拓地

東条川用水とともに忘れてはならないのは400haにおよぶ開拓地です。草加野万勝寺地区や嬉野地区は台地上にあるため、雨が少ないうえに河川の水を利用することが難しく、その大部分は山林や原野として残されていました。

代表的な開拓地である草加野万勝寺地区は、戦後の「緊急開拓事業」により満州からの引揚者の人たちを中心に本格的な開墾が行われた地区です。入植した人たちは、戦後の食糧難で資材もなく、腕一本で一鍬一鍬、苦労して開墾を進め、最初はサツマイモ、大豆や、たばこなど畑作を中心に農業が行われました。乳牛の飼育も取り入れられましたが、たびたびの干ばつにも悩まされ、生活は厳しいものでした。

1958年（昭和33年）に鴨川ダムの水がポンプ揚水によって通水してから、開拓地にも安定的に水が供給されるようになりました。耕地の大部分は水田化され、農業生産も安定するようになりました。高台にある開拓地への水はポンプで汲み上げて送っています。東条川用水には７箇所の揚水ポンプ場があります。ポンプで汲み上げられた水は直接かんがいに用いられるとともに、ため池にも貯えられ無駄なく使用されています。

現在の草加野万勝寺地区
稲の緑が美しい田園地帯になっています

嬉野開拓前の様子
荒れ放題でゴミ捨て場になっていたらしい

ポンプ場（嬉野ポンプ線）

昭和36年災害で埋まったポンプ場と復旧のために集まった様子

草加野万勝寺地区のポンプは、56mの高さまで上げる巨大なものです

地域の人々の長年の苦労によって開かれた土地であるため後世に伝えるための記念碑や神社が建立されました

開拓記念碑（春日野地区）

開拓神社（大開町）

開拓記念碑（加東市嬉野地区）

# 開拓地

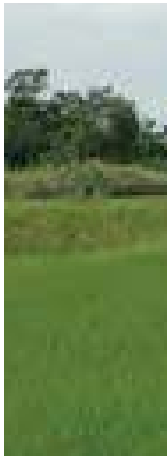
## ダムの水

ダムから水が来るようになって、水田400haが開墾されました。加東市や小野市には、水の便が悪く水田にできない台地がありました。ポンプを使って水をそこに配水し、多くの水田を開き、戦後の食糧難の時代に、米増産に貢献しました。

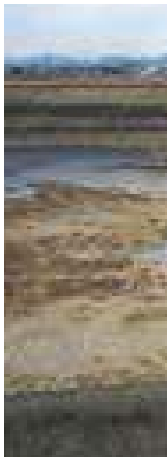
## 台地の暮らし

草加野万勝寺地区や嬉野地区など台地は、もともと水の便が悪く雨が少ないので、昔から台地は「不毛の地」と見られていました。水が来るようになって、畑作や酪農の他に稲作ができるようになって、農家の生活は幾分楽になりました。

す。標高が
3台が設置
水が来るよ
していた人



その

## 22 寺

寺井堰は
1206年)に
町ほか5町
たと言われ
す。かつて
取水した水
の堰で取水
た。現在、用
えられた鴨
で、安定的
います。